



奈良比野岳 上

兼好法師傳

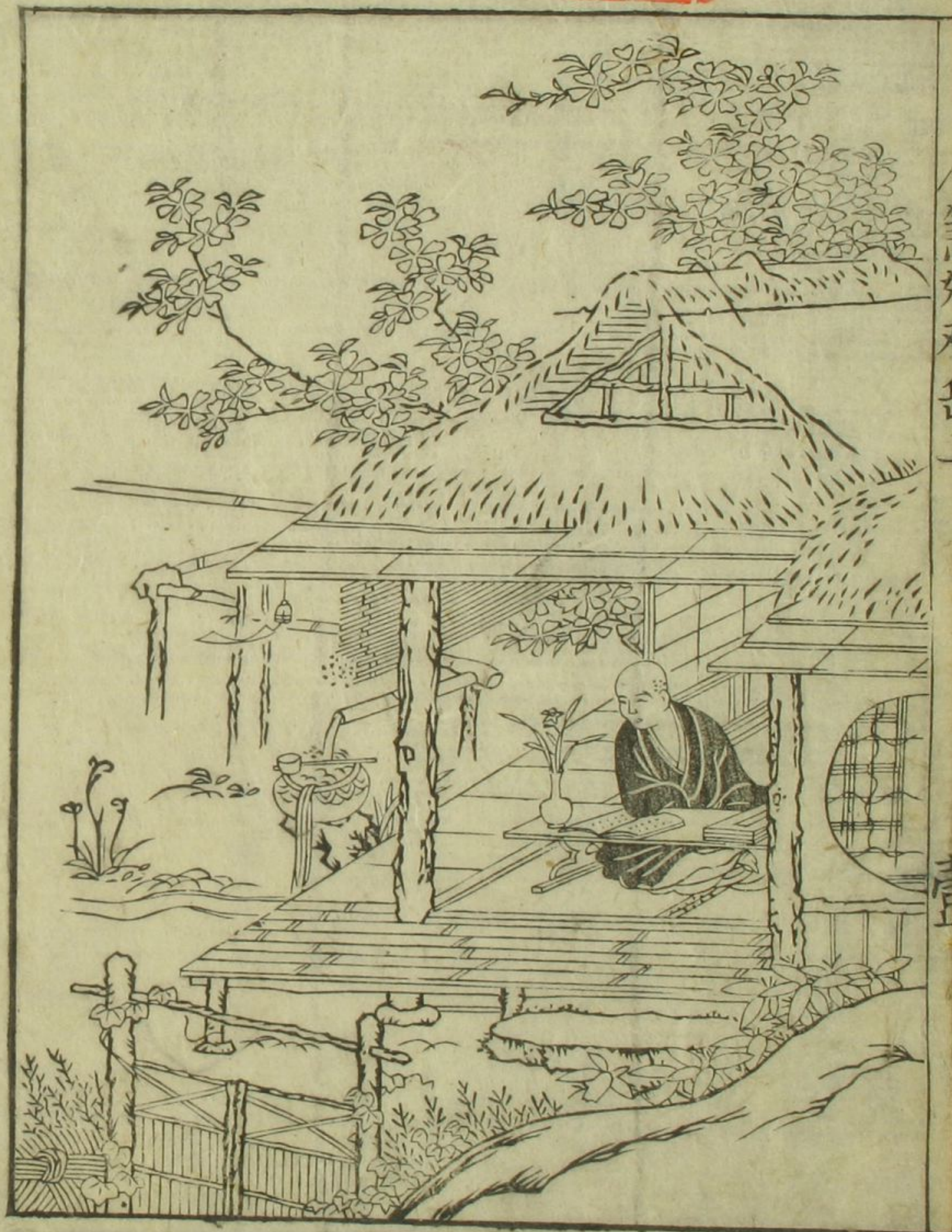
兼好法師傳

~ 2  
1377  
1



へ 2  
1377  
1-2

門心  
1377  
巻 1



全川又五

三

金剛山

序

此書は兼好法師一世の始末と  
記すの那<sup>ヤ</sup>那<sup>ワ</sup>双<sup>フ</sup>無<sup>フ</sup>乃<sup>ハ</sup>回<sup>ル</sup>路<sup>ニ</sup>ト<sup>テ</sup>飛<sup>ス</sup>也  
事<sup>ハ</sup>は<sup>シ</sup>年<sup>ハ</sup>あり<sup>テ</sup>師<sup>ノ</sup>の<sup>昔</sup>と<sup>去</sup>り  
と<sup>兼</sup>好<sup>法師</sup>秋<sup>風</sup>古<sup>く</sup>く<sup>大</sup>凡<sup>く</sup>河<sup>川</sup>百<sup>々</sup>芳  
く<sup>し</sup>に<sup>及</sup>ひ<sup>た</sup>ん<sup>ご</sup>と<sup>予</sup>遣<sup>る</sup>ぬ<sup>る</sup>余  
兼<sup>好</sup>山<sup>の</sup>端<sup>に</sup>は<sup>兼</sup>好<sup>法師</sup>の<sup>是</sup>と<sup>云</sup>ふ<sup>の</sup>  
兼<sup>好</sup>法師<sup>の</sup>教<sup>を</sup>と<sup>り</sup>て<sup>と</sup>て<sup>兼</sup>好<sup>法師</sup>

兼好法師傳上

式

此佛よりとて... 追福乃志と云ふ... の好し

于時享保十一丙午歲智月仲五日

洛西雙岳社

長泉寺幾春庵

老隱 利微 八十歳書



魚部氏系圖

○大織冠鎌足

意美磨 — 清磨 — 諸魚

智治磨 — 日良磨 — 豐宗

好真 — 魚延 — 魚忠

魚親 — 魚政 — 魚俊

魚康 — 魚貞 — 魚茂

右京大夫 左馬頭

魚名 魚顯

慈遍

大僧正  
南朝詔

魚雄

民部大輔  
從五位上

魚好

左兵衛佐

魚直 魚藤 魚益 魚夏 魚豐

魚熙 魚敦 魚富 魚名 魚俱

魚致 魚滿 魚右 魚見 魚治

魚里

將人系圖

素良比野園卷上

魚好法師傳

隱士兼好ハ吉田の社司。尤馬頭ト於レ兼好

ハ男大織冠孫足ル也。後裔カシ。後字多

帝弘安六年癸未。遷セリ。幼齡ニ

トレリ。聰敏ナリ。少ク。祚家ト學ニシ

テ。權ク入車ト波擯志。倭漢ノ才。富

い。〜。宗辭トシ。〜。倭教ト

延慶二年二月八日。兄兼雄兼兼ト

魚好法師傳上

院に勅望とてしほし。神歌部奏十全と撰下。お祓と奏進し。帝感乃由。兼雄の官の中浦に任じ。後六位上と叙し。兼矩の天藏の中浦に任じ。後六位下に叙し。兼好のたるれとき。任じ。後六位下と叙し。明年二月朔日。すし。このゆくのりお祭る。又兼好左馬侍。任じ。民部の丞と兼ぬり。まじ。かたし。れく。兼好の官。近代表七に。か。む。

式内の神な。さ。バ。疎畧。よ。ある。く。に。と。り。れ。ら。ハ。兼好社司。く。く。む。を。と。あ。は。る。ご。と。一。兼好の勅許。と。あ。む。む。り。同年六月十四日。兼好勤番。あ。日。の。く。く。く。滝口の。内堅。と。ひ。く。む。を。と。奏。し。と。進。云。の。刻。兼好にお。い。く。萩。の。隅。に。怪鳥。二羽。庭。に。く。く。宿根兼好。胡録。乃。矣。と。ご。り。村流。の。様。す。と。と。ら。く。怪。を。に。幾。川。諺。に。

かゝくはびいゝに射とら。一鳥ハ鴨ハ似と。  
あゝよくうゝい毛何葉。一鳥ハ雁ト仰と云  
力あり。暖儒の三流トさうづひといふた。そ  
れ名と辨とひん好く。あづゝくあ葉と。西  
狐と化とく去は。ト部兼好の切堂上堂下  
あまこと感せもこりやせ好く。使やん希有  
乃とかなりゝゝ。あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ト部兼好の平生忠勤のいゝは。書とよむと  
とこのい。在老い。年。巻と秋とやゝゝゝ。何氏  
文集といのゝゝ。蘭有の石時錦帳下。廬山  
雨夜草菴中。しらふ句とくはくはひにやとこ  
ろとよむとゝゝ。絶々次源道。のゝゝ。あゝと  
ととれととと。頭基の中約と乃風情と  
慕蘭とと。蘭世のいゝゝ。摩訶止観と  
うゝゝゝゝゝゝと。佛業よゝゝゝ。塵埃とい

上人の山をめぐりて。後學の院廟  
 御しむ。其好なる滝に作りて。龍  
 龍教の家。電遇あはれらる。天恩  
 會者定離の形。骨髓徹り。うはは  
 俗の字と法神の名よ。いさる。本  
 したるに。いはる。



と流る。まづは神宮といへ東漂西  
泊の世業人となりてまづは  
ほりあんのちりぬかゝるき岩窟  
眠る

計

流本



も流る  
まづは  
乃  
まづは  
乃  
まづは





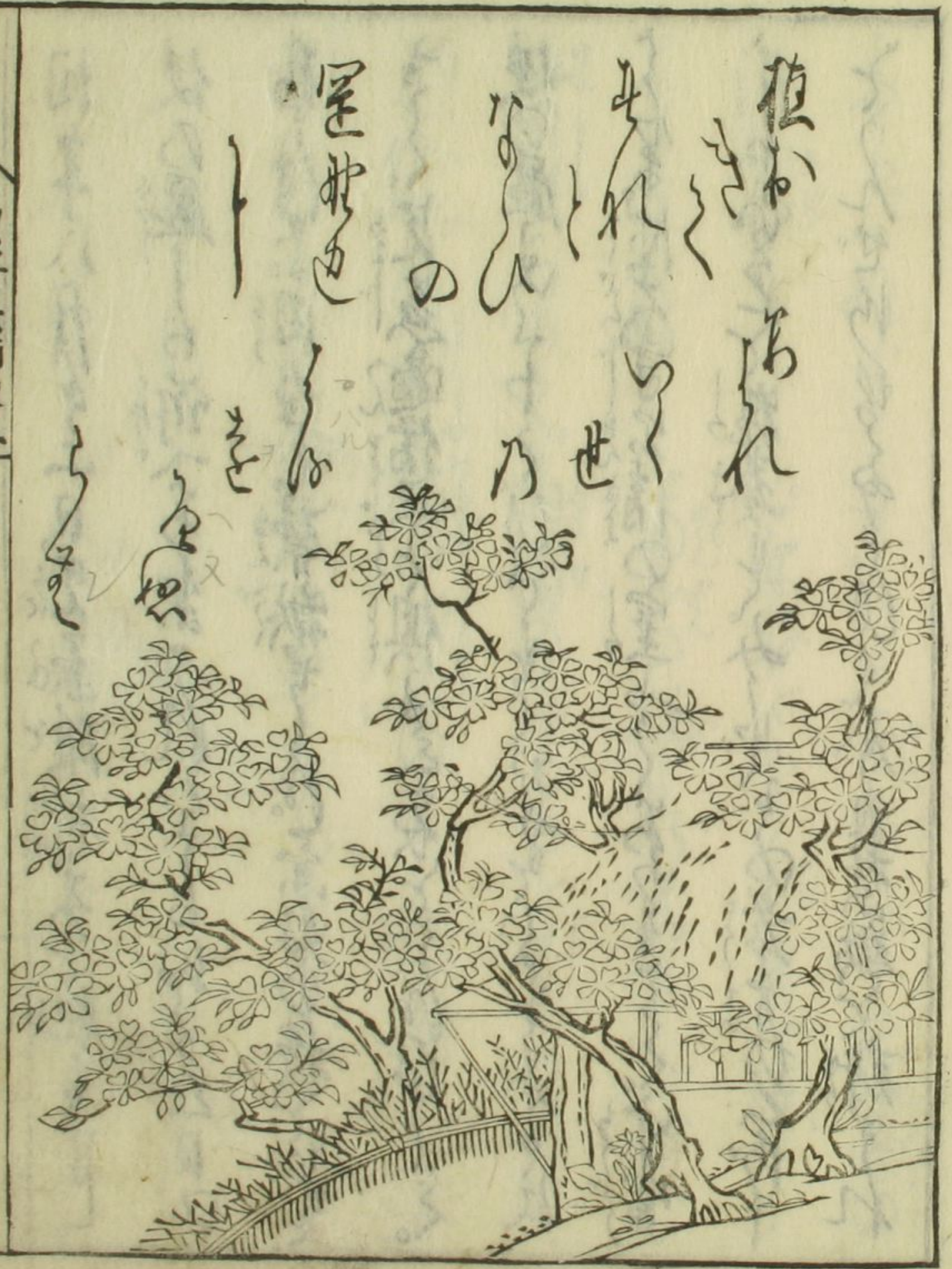
浮世  
 余はれ  
 おい  
 かの  
 那

本居れお中よ志づ〜。錫と〜ね。碓氷中  
 茶養と〜じ〜。佐々  
 麻と〜  
 風〜。い〜。

詠

と

ありしに候は住居をとりてりとも位州更  
 科の月、藤、木、奥の松、鶴、山、とていふ  
 とある史書ありは、ゆゑに十、八、宅、見、とていふ。都  
 ような所に、故友親族あつてハ、リ、名、の、こ、な、り。  
 中、人、の、康、永、二、年、七、月、廿、七、日、海、西、并、園、の、中、に、  
 一、塔、を、建、立、し、長、四、尺、八、寸、阿、弥、陀、佛、の、寶、  
 瓶、と、彫、り、依、り、松、樹、數、十、株、と、植、え、り、善、好、塔、  
 塔、の、賜、と、い、ふ、は、く、れ



兼子法師傳上

同年八月廿二日、兄兼雄神本と犯し、  
使の廳より祈へお來りければ、もねらうと日の  
ちほは、囚へて禁獄せしむ。兼好の終つたは  
さへ、兄兼通信正と俱に、さへは、は  
使の廳より、とく、ひい、き、な、ま、い、ふ、と、あ、ま、に  
と、案、は、守、り、清、の、室、さ、う、あ、り、も、こ、こ、中、宮  
い、も、あ、ま、と、施、奏、し、み、よ、と、の、考、考、の、い、り  
と、う、ん、せ、ら、も、あ、ま、い、い、く、今、日、禁、獄、と、許、さ、れ

ふ、ら、お、お、い、く、廿、八、日、南、帝、い、も、施、奏、の  
御、加、お、い、く、兼、好、と、あ、ま、い、兼、好、辞、し、ら  
よ、と、あ、り、彩、い、く、兼、好、の、後、は、お、い、く、兼、好、の、お  
勢、別、は、あ、り、く、高、僧、の、あ、ま、い、く、兼、好、の、な  
友、伴、知、賀、の、あ、ま、い、く、橘、の、成、太、の、り、く、兼、好、と、あ  
兼、好、の、り、く、兼、好、二、首、と、い、く、兼、好、の、是、と  
兼、好、の、り、く、兼、好、と、い、く、兼、好、の、り、く、兼、好、と、い、く  
兼、好、の、り、く、兼、好、と、い、く、兼、好、の、り、く、兼、好、と、い、く

清如海御...  
かき... ちの... 寛永...  
和也の...  
養心...  
反...  
自...  
と... 兼好法師... 淨... 慶... 長武部...

既... の別... 良基...  
兼... の... 養...  
て...  
し... 合の  
は...  
ふ...

兼好法師傳

兼好法師色

於好しく

しる糸乃

るふ

を井中

す波よよ

ふと 小糸乃

月と

おん



おむらへく二月二日。兼好法師この落おち執柄しやく乃の清きよれ

とろく新あらた古ふると集あつと講かうとここのこのの作し

と。このこのもどもど花はなとよよのころのころ突つかかららののおおのの

乃の盆ぼん底ぞににくくひひごごゆゆ。辨はんごごののののももとと

かからら。兼かね好こう数すう年ねんのの百ひゃく杖じやう老らう初しうのの歌うた林りんががゆゆ

くくははくく。以もつ懇こんららととあありりししのの侍さむらい席せきににはは

人ひと。兼かね好こう井い。兼かね大だい納なつ之の。兼かね能のう寺てら前まへ中ちゆう納なつ之の。万ま

里さと小こ路ろ侍さむらい後ごのの上うへをを級くわい数すう十じゆう年ねん。兼かね上うへのの男おとこ

二十餘年なり

四月十二日。貞和の撰集りりて。聖徳太子の  
信也を編に。まよひ。席はら。まよひ。  
これの席、案口兼好くらき。まよひ。勅定あ  
ら。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。

貞和の御印

貞和の御年五月廿四日。古田の神宮寺焼失せ  
りされ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。

かろき

四月廿八日。兼好ももははひはとあらの和歌後秘抄をひひの抄本の秘式三部。

御慶望よよて。良基よよの達せし流。

兼好一通のよよとよとく。慶後にてま。

あれよよとて。執業斜るよよすれよら

執宣よよとて。持傍部にて任せしは。

兼好再三あまよと病しよよまががはよと

抄撮乞食の生涯とよよあひ言實信部  
乃遺跡と想像よよ速達のあらけよと強  
ま

水筆とよよたなれよよかみハ

よよとよよとよよとよよとよよとよよと

宇教宮公經兼好寺公義西土横川よ結ら

て。兼好法師と流らよ。志よよとよよとよよ好。

寂然よよと寂坐しよよあまよ。西土徘徊

すはらばらむらむら〜時兼好も紙川兼成  
和ま。ま士具好〜落涙と催〜は麓  
うを尻〜。ま人倭歌と源〜を残〜とむ

公綱

心〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

花〜〜

公義

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

兼好法師の海〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜





於行くは月十日は好むとてひて侍  
 衆のくは河野明神にもふて七日毎夜  
 河野の草子と撰とて。寢覚の友と号  
 す。古今の法儀とのせ。或の櫻芳と弁  
 無乃変易のやうとてさるる。はるの乃  
 感涙とてぬらむとてあやむ。頼河ハ  
 於よりる。兼好ハ伊賀の山司権守楊成  
 忠田友の志とて。



伊賀の国にうへはも。中服のつ祖祝とわかれ  
あのみほるまの。勅書が。蕭好野とよてう  
ひし。か。後系にわらり次

貞和四年四月廿四日。蕭好法所桑門好何と  
とてに。好いあ。六時念御とり。む善提  
心とあ。数百許人官女群とれ。乃のこ  
つ。大念と。粥と煮。は。人  
ほ。

同八年八月十日。院の御所。唐の御所。幸あり。  
供もの。御。千余人。在。た。花。今。日。た。  
雅食と。穀。は。若。詩。と。敏。倭。歌。と。是。も。ゆ。  
別。勅。あり。こ。ひ。と。ま。好。河。蕭。好。津。辨。の。三。信。と  
め。これ。各。詩。歌。と。獻。せ。り。も。蕭。好。の。侍。人。

觀世霜山楓葉の。又願身秋露草。中國の句  
處。涙。も。も。ぬ。れ。た。の。御。所。顔。に。あ。ま。こ。や。ん。ど  
は。無。く。も。花。台。と。れ。も。の。金。箔。ハ。え。享。文。草

中へののせり。於河津辨待頭しほらの感かんあり。と  
あまこと畧りやくと。びくも兼好かねこうと。白しろと。院いん再また以もつ給たまふ  
半はん多た待まちり。感かんてに還かへ河津かづの。と。信しんよの  
く賜たまふたまふたまふたま

兼好中かねこうちゆうより。西州せいしゅうより脚あし。る。今いま後のち括くわく州しゅう  
荒あらい渡わたの南みなみ河津かづの。養やしやうと。ひと。ひと。長ながせ。が。  
伊い弑しの国くに成なり忠ちゆうのり。や。と。強かうく。と。ひと。あ。ひ  
少すくく。と。年ねん彼か國こく。も。ひと。ひと。あ。ひ。ひと。あ。ひ。

風景とて  
兼好とて  
兼好とて  
兼好とて



觀應元年二月二日。兼好疾し羅ゆくと  
乃きよありももいん。聖國の信最おひ  
るら母し。上皇れ勅にふはく。曲草歌和乳  
此清え伴知方のぬ。おむいじく。い。兼好金と  
く。あま

おねりく七日伊かき守掃成忠のりく。使と  
いせく。兼好く。曲草の歌のらも。後身とるま  
も。い。む。い。ん。ま。ゆ。り。死。せ。た。の。ま。か。い。は。

兼門のまのあまふらなもそ。歌とつて。諸  
茶ともらひほど。おねりはく。と。一許の命とけ  
く。曲草の歌とみ。の。は。せ。り。と。る。ま。ま。と。奏  
も。ま。の。兼好は。近村の。貧民は。あ。く。お。あ。り。を。く  
同日二条良基公。清く。よ。急。病。と。袖。して。菟。丹  
あり。い。兼好。年。未。倭。弁。の。朋友。あり。い。放。  
病。と。り。ん。ふ。ゆ。い。は。ま。伊。か。き。あ。ま。の。ま。あ。ま  
と。り。り。

用月十八日。兼好法師淹然えんぜんとて逝いす。壽いざなひ六十八歳

お好よしくは十八日に成忠なるただが御みこやうに注進しゆしんせし。上皇じやうかう主上しゆじやう慈院じいん宮みや公こう卿けいにいはせし。御衣みえとらひとちり多おほくまふ。系けい殺ころ青銅せいどうとあゆしつこ。回まわ井いの在あり墓はかと築つくさ。遍へん世ぜ寺じの僧そうとありて。その葬そう事じと親おやのとせ。ゆめから伊い加かスのゆめ分ぶん寺じにく葬そう送そのゆくとはとやらは草菴そうそうのまうにのまひとふ

るのもの。唯ただ古ふる筆ひつ乃な法華ほつわ經きやう。り筆ひつの老子らうし經きやう。源げん氏しおら。次つぎ麻あおら。乃なまき。びよ。松まつのり。筆ひつの幻まぼろしの事こと。神代かみよの事こと。二冊ふたふみ又また古ふる筆ひつ習しゆの書かき。於お二ふた包つかひ墨すずり漆しやくの麻衣あさぎ。二ふた装ま束たば。其その外ほかハ只ただ平へい夕せきの附つ具ぐ。食じき旅り等らり。童どうの乃な。余あま苑えん良ら基き公こうの成なり。月つきに死しす。兼好よしよし生な前まへの二ふた冊ふみよ。右みぎ中ちゆうの誦じゆんと獻けんと。ちよ。ハサレ。のね。う。と。ま。く。ま。く。とく。お。め。な。ハ。夢ゆめと。と。お。ら。し。ふ

は人のみゆりありあはれにや

はゆりもあはれにや

是の病中の詠なり

ありとて人はあはれにや

みよるはあはれにや

あはれにやあはれにや

詠ゆりゆりありあはれに

同は日謚に権信の信實なり

鷹取二年三月撰津の國と津村より合書の法華

後八づく観音の像を施す今秘抄二冊室町家

よかへははれにやあはれにや

一巻の記述とてあり。教書の像に兼好自彫

刻せしなり

天正寺の信侶寂室に作りし兼好法師の陪侍

し。歎及執念の人形也。但し秘奥に合松丸を

まはせしなり。合松丸は下北を其の下に

八幡宮の御代二

守貞吉が姪りも幼くく敷のえ物院の信心  
宗海がりやにありのうざらにふとんぐく兼好法  
師にたごごくすねが二條家秘授の弄童  
なり。死くく伴笑の国粟の寺に葬は

應安六年三月十二日。二條実白良基がらも兼  
好法師のあしむ。性中傳りび。寂光淨土願に  
ましく草一寺の書家のしんと室町の御所よ  
とくら芳るあしむいせ

上ノ巻終



